

平成24年度 第1回

四国地方整備局新技術活用評価委員会の開催
～有用な技術が育成し、社会に還元されるために～

四国地方整備局は、有用な民間等の新技術の公共工事等への活用促進を図る事を目的として、新技術に係る情報の収集、技術公募、事前審査及び事後評価等を実施するための『四国地方整備局新技術活用評価委員会』を以下の要領で開催いたします。

記

「平成24年度 第1回 四国地方整備局新技術活用評価委員会」

日時：平成24年 8月27日（月） 13：30～15：30

場所：高松サンポート合同庁舎 低層棟 2階 アイホール

【審議事項 概要】

1. 新技術の事後評価（10件）

工事の中で使った結果を基に、技術进行评估します。

今後の工事で採用する時等に、この結果を参考にしていきます。

2. 新技術の試行実証評価（2件）

『デジタルカメラによる三次元災害地形図作成システム』及び『写真計測による3Dモデル構築システム』について、現場で試行した結果を基に評価を行います。

3. 『四国テーマ設定技術』

平成23年度に応募された技術の整理状況と、平成24年度の募集結果について報告を行います。

※「四国テーマ設定技術」とは、四国における具体的なニーズにマッチした、四国のこれからの発展に役立つ技術テーマ（災害対応技術、構造物保全技術、維持管理技術）を設定し、平成18年度より取り組んでいます。

<取材でのお願い>

新技術の審議内容については、各技術の秘密・特許情報等にかかる事柄があることから、取材は委員会の頭撮りのみとさせていただきます。なお、委員会終了後事務局にて取材に応じます。

平成24年8月22日

<問い合わせ先>



国土交通省 四国地方整備局

企画部 施工企画課長

やまもと ひろひさ
山本 博久

(087-851-8061 内線 3451)

○ 施工企画課長補佐

いわさ たかし
岩佐 隆

(087-851-8061 内線 3453)

※○：主たる問い合わせ先

～審議技術の概要～

<事後評価>

『セフトパラベッター(CB-100024-A)』

枠組み足場の組み立て・解体及び作業時の安全を確保するための据置型手すり先行工法で、かつ作業員の安全帯取付機能として「パスポーター」というスパン間を自由に往来できる機能を備えた技術である。

『エア・フォールド(KK-080036-A)』

枠組み足場の組み立て・解体及び作業時の安全を確保するための据置型手すり先行工法で、かつ手すり本体を折り畳み式とし取付金具を別部材とすることにより、運送効率の向上及び置場の省スペース化を図った技術である。

『パネル式システム吊り足場「セーフティSKパネル(KT-100070-A)」』

橋梁桁下の足場工・防護工を、パネル式ユニットで構築する技術である。

『法面機械構台システム足場(KT-060089-V)』

斜面・法面工事において、ボーリング機械等を搭載する機械構台足場に用いられる単管パイプの結合方法を、通常のクランプ（結合金具）からクサビによる緊結方式とする技術である。

『レインスルー(QS-070021-A)』

既存の側溝を有効活用し、その上に透水性（排水性）舗装を施工するため、埋設蓋を、従来の現場打ちコンクリートから2次製品化した技術である。

『ボックスベアリング横引き工法(KT-990571-A)』

ボックスカルバート（2次製品）敷設の際、ガイドレール（H形鋼）を設置し、その中にベアリング（鋼球）を敷き詰め摩擦低減を図り、大型重機を必要とせず所定の位置に据え付ける技術である。

『マルチレベル工法(TH-020011-A)』

ボックスカルバート（2次製品）敷設の際、マルチレベルボルトという治具を取付けることにより、大型重機を必要とせず所定の位置に据え付ける技術である。

『ND-WALL工法(TH-080005-A)』

逆T擁壁等のコンクリート構造物の耐久性向上を図るためのひび割れ抑制技術で、壁状のコンクリート構造物において底版上部に先行壁体部を設け、その中に収縮低減目地を配置することにより温度応力が低減し、温度ひび割れの抑制を図る技術である。

『パネル式防護柵(KT-080015-A)』

法面災害発生時や法面工事などの際に用いられる仮設防護柵は、従来、H鋼横鋼矢板方式にて対応しているが、これをパネルを上から差し込みH鋼に固定させる技術である。

『防草を意図したコンクリート境界ブロック(CB-050041-A)』

コンクリート境界ブロックと他の構造物との目地部の防草対策として、自然の摂理である屈光性（芽は下向きには伸びない）を利用した技術である。

<試行実証評価>

『デジタルカメラによる三次元災害地形図作成システム』及び『写真計測による3Dモデル構築システム』

デジタルカメラにより撮影した写真を基に、画像解析し、平面図及び横断図等をすみやかに作成する、災害発生時の即日性調査を可能とする技術である。

※ 技術の詳細は、登録が完了しているものについては、以下のURLにて確認できます。

<http://www.netis.mlit.go.jp/EvalNetis/NewIndex.asp>

平成24年度 第1回四国地方整備局新技術活用評価委員会

議事次第

日時：平成24年 8月27日（月）13:30～15:30

場所：高松サンポート合同庁舎 アイホール

I. 開会

II. 挨拶（企画部長）

III. 委員長選出

IV. 議事

1. 平成23年度第3回新技術活用評価委員会の報告等

1－1 平成23年度第3回新技術活用評価委員会の報告等

2. 新技術の事後評価

- 2－1 四国地方整備局で事後評価を行う技術について
- 2－2 セフトパラペッター
- 2－3 エア・フォールド
- 2－4 パネル式システム吊り足場「セーフティSKパネル」
- 2－5 法面機械構台システム足場
- 2－6 レインスルー
- 2－7 ボックスベアリング横引き工法
- 2－8 マルチレベル工法
- 2－9 ND-WALL 工法
- 2－10 パネル式防護柵
- 2－11 防草を意図したコンクリート境界ブロック

3. 新技術の試行実証評価

- 3－1 試行調査概要
- 3－2 試行調査結果
- 3－3 試行調査総合評価

4. 平成23・24年度四国テーマ設定技術試行について

- 4－1 平成24年度四国テーマ設定技術の応募結果について
- 4－2 平成23年度四国テーマ設定技術の経過について

5. その他

V. 閉会

「四国地方整備局新技術活用評価委員会」設置趣旨書

1. 設 置 趣 旨

公共工事に関連した民間等による技術の開発は、公共工事の品質の確保や安全で安心な暮らしの実現、良好な環境づくり、快適で生活コストの安い暮らしの実現等に向けて、民間等の分野における技術開発が促進され、優れた技術が産み出され、さらには、改良が加えられ、社会に還元されていく仕組みを確立することが重要です。

四国地方整備局では、これまでにNETIS(New Tecnology Information System , 新技術情報提供システム)を用いて新技術の活用を推進してきたところでありますが、民間の技術開発の促進およびすぐれた新技術の活用による公共工事の品質の確保、コスト縮減等を強化・促進するために、学・産・官の有識者により構成される「四国地方整備局新技術活用評価委員会」を平成17年6月29日に設置しました。

当委員会においては、公共工事等への有効な新技術の活用促進を図る事を目的として、新技術に係る情報の収集、技術公募、事前審査、現場での試行及び事後評価を実施します。

委員会の運営を通じ、四国地方における地場産業、地域特性を生かした地域貢献ならびに防災・減災が図れることが期待できるとともに、全国の公共工事等において新技術の活用促進を図る事により、民間における技術開発が促進され、良い技術が育成し、社会に還元されるスパイラルが確立され、公共工事のさらなる品質の確保、コスト縮減等が期待できます。

2. 新技術活用評価委員会 委員名簿 (敬称略:順不同)

(大 学 5名)

松島 学 香川大学工学部 教授(構造工学、コンクリート工学、信頼性工学、景観工学)

吉田 秀典 香川大学工学部 教授(構造工学、地震工学、維持管理工学)

山口 正隆 愛媛大学工学部 名誉教授(海岸工学、自然災害科学)

高木 方隆 高知工科大学システム工学群 教授(国土情報処理工学)

渡辺 健 徳島大学大学院ソシオテクノサイエンス研究部 准教授

(コンクリート工学)

(産 業 界 3名)

(社)日本建設業連合会四国支部 技術委員会 委員長

(社)建設コンサルタンツ協会四国支部 企画委員会 委員長

(社)日本埋立浚渫協会四国支部 技術委員会 委員長

(研究機関 2名)

(独)土木研究所 材料資源研究グループ長

(独)港湾空港技術研究所 研究評価官

(整 備 局 8名)

四国地方整備局 企画部長 外7名